

(別紙)

化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウムプログラム

～未来に^{はばた}翔く子どもたちのために～

第11回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム
第7回小児等の環境リスクに関する国際シンポジウム

日時：平成20年12月14日(日)13:00～16:30 開会式・公開シンポジウム
15日(月)9:00～18:00 専門家による公開セッション1～3

場所：東京ビッグサイト（東京国際展示場）
東京都江東区有明3-21-1（総合案内所）03-5530-1111

平成20年12月14日(日) 第1日【会場：国際会議場】 ※日英同時通訳が入ります。

13:00

開会式

公開シンポジウム テーマ：～未来に^{はばた}翔く子どもたちのために～

映像 「未来に^{はばた}翔く子どもたちのために — 子どもの環境保健 —」

- ・子どもの脆弱性とは
- ・世界各国で進む取組
- ・子どものために

基調講演

総合司会

内山 巖雄（京都大学）

- ・ 子どもと環境
～一般市民の立場から～
(調整中) (一般市民)
- ・ 子どもを取り巻く環境と健康
緒方 勤（国立成育医療センター）
- ・ オランダの現状と取組
アルバート ホフマン
～これまでの調査で分かったことと今後の
(オランダエラスムス大学)
課題～
- ・ 米国の現状と取組
エドワード B. クラーク
～小児環境保健法制定からナショナルチルドレンスタディ（NCS）まで～
(米国ユタ大学)
- ・ 日本における取組
佐藤 洋（東北大学）
～小児環境保健の現状と課題～

～16:30

平成 20 年 12 月 15 日(月) 第 2 日【会場:レセプションホールA】※日英同時通訳が入ります。

専門家による公開セッション

9:00 ~12:00 セッション1 化学物質等の環境因子とアレルギーに関する研究の最前線について

- コーディネーター 齋藤 博久 (国立成育医療センター)
- ・ 環境が喘息病態・発症に及ぼす短期的及び長期的影響 ゲイリー WK ウォン (香港中文大学)
 - ・ アレルギー性皮膚疾患と環境因子 片山 一朗 (大阪大学)
 - ・ 免疫・アレルギー系の制御機構 岩倉洋一郎 (東京大学医科学研究所)
 - ・ ダイオキシン受容体の機能と炎症性疾患 本橋ほづみ (東北大学)
 - ・ 環境化学物質によるアレルギーの修飾 高野 裕久 (国立環境研究所)

13:00 ~16:00 セッション2 小児環境保健に関する疫学調査~世界各国で進められる疫学調査~

- コーディネーター 佐藤 洋 (東北大学)
- 香山不二雄 (自治医科大学)
- ・ 米国: ナショナルチルドレンスタディの取組 エドワード B. クラーク (米国ユタ大学)
 - ・ ノルウェー: 母と子のコホート調査 ヴェンケ ニスタット (ノルウェー国立公衆衛生研究所)
 - ・ デンマーク: 国家出生コホート マッズ メルビー (デンマーク国立血清研究所)
 - ・ オランダ: ジェネレーションR アルバート ホフマン (オランダエラスムス大学)
 - ・ 韓国: 小児疫学調査の取組 (MOCH Eプロジェクト) エンヒー ハ(韓国梨花女子大学)
 - ・ 日本: 環境省の取組 (小児環境保健疫学調査) 川本 俊弘 (産業医科大学)
 - ・ WHOの取組: 発展途上国における疫学調査の可能性 ジェニー プロンクズク (世界保健機関)

16:15 ~18:00 セッション3 化学物質の内分泌かく乱作用に関する取組と今後の展望について

- コーディネーター 井口 泰泉 (基礎生物学研究所)
- ・ OECD及び米国における化学物質の内分泌かく乱作用の試験法開発と今後の展望 レスリー W. トウオアート (米国環境保護庁)

- ・ 環境省による野生生物を用いた試験のまとめと今後の展望 鑓迫 典久（国立環境研究所）
- ・ ヒト・実験動物における化学物質の内分泌かく乱作用に関する最近の話題 遠山 千春（東京大学）
- ・ 化学物質の内分泌かく乱作用に関するリスクコミュニケーションについて 崎田 裕子（環境ジャーナリスト）

※セッションタイトル名等は変更する場合があります。